

安全就業便り



(第 260号)

令和8年度7月15日
安全・適正就業委員会

蜂に注意！安全な屋外作業のために！！

夏から秋にかけて、屋外で作業する際の^{はち}蜂対策は重要です。

◆ 事前準備

1. 長袖、長ズボン、帽子、手袋を着用し首元をタオルなどで保護する。蜂は黒い色に反応するので、黒い色の衣服、帽子等は避ける。また強い匂いに反応するため、香水や整髪料などは使用しない。
2. 蜂対策スプレーや応急処置用の保冷剤や冷却材を携行する。

◆ 作業前

1. 作業開始前や下見の際、作業場所周辺に巣や蜂がないかしっかり確認する。
(特に注意する場所は軒下、樹木、草むら、石垣、倉庫周辺など)
2. 蜂が頻繁に出入りしたり、巣を発見したら発注者へ連絡を入れて、対策が完了するまで作業の延期や中止を申し入れる。
3. 蜂が飛んでいたら手で払わず低い姿勢でゆっくりその場を離れる。

◆ 刺された時の対応

1. 刺された場所から速やかに離れる。(スズメバチは仲間を呼ぶことがある)
2. 傷口を流水でよく洗う。保冷剤や氷をタオルで包み患部を冷やす。
3. 次の症状がある場合は、アナフィラキシーショックの可能性があるので、すぐに119番通報を。

息苦しい、喉が締め付けられる感じがする、声がかすれる、全身にじんましんが出る、顔や唇が腫れる、めまい、ふらつき、意識がもうろうとする。

マダニ対策～感染症から身を守るために！！

マダニは草むらや藪、畑などに生息し、咬まれると重い感染症を媒介することがあります。特に高齢者は重症化しやすいため、注意が重要です。

5月～8月はマダニの活動が活発になります。

■ 作業前

1. 明るい色の衣服を着用する。長袖、長ズボン、帽子を着用、長ズボンの裾は靴下に入れて、肌の露出を出来るだけ少なくする。
2. 虫よけを活用する。衣服や靴にも適切に使用する。

■ 作業中

1. 草むらや藪には不用意に入らないか、入っても最小限にする。特に獣道や野生動物の痕跡がある場所は注意する。
2. 休憩場所は草の少ない場所を選んで、地面に直接座ったり、寝転んだりしない。
3. 定期的に衣服や靴にマダニが付着していないか確認する。

■ 作業後

1. 衣服等にマダニが付着していないか、仲間と一緒に確認しあう。帽子、袖口、ズボンの裾、靴下を重点的に確認。
2. 家に入る前に服やズボンをしっかりはたく。
3. 早く入浴、またはシャワーを浴び全身を確認する。

■ マダニに咬まれたら(特に高齢者は重症化しやすい)

1. 無理に引き抜かない(口器が残る、つぶれてウイルスが入る)
2. 早く医療機関(皮膚科、外科)を受診する。
3. 体調の変化に注意する。特に2週間程度は体調の変化に注意を。

2週間以内に発熱したら咬まれた可能性を医師伝えることが重要

■ 主なマダニ感染症

① 重症熱性血小板減少症候群(SFTS) (ウイルス感染症)

潜伏期間6日～14日。西日本(九州、中国地方、四国、近畿西部)を中心に発生。

特に山口県は SFTS 患者の報告が多い。高齢者は重症化しやすい。致死率(20～30%)。

② 日本紅斑熱 (細菌の一種 リケッチア)

潜伏期間2日～8日。発熱、発疹、強い倦怠感、傷口が特徴(かさぶた状) 適切な抗菌薬が遅れると重症化することがあるので、早期治療が重要。

③ ライム病 (細菌の一種 ボレリア)

潜伏期間2日～8日 日本では比較的少ない。